

2024年12月22日

「主にある喜び」

ルカによる福音書 1:26-38

早川 真牧師

クリスチャンであると言うことは、人間的な目から見たらとても喜べないことのようにも思います。日曜日は礼拝に行き、神を意識して、世の楽しみではなく神の御心を求めて生きると言うことは葛藤も生じてきます。しかしもう一つの、信仰の眼差しでこのことを見た時、それはそのような困難が困難と思えないほどの恵みを受けた者とされることだと言うことが分かります。

しかしこの信仰の眼差しは、しばしば日常の些細なことで失われてしまいます。全能の神が共におられるにもかかわらず、現実には日々の困難で思い悩む私たちの姿があります。しかしそのような弱い私たちの助け主として、聖霊が与えられます。聖霊はマリアに臨んだようにイエス・キリストを信じる者の内に臨み、私たちが日々主の恵みを信じ受け入れることができるよう働いてくださいます。そしてその恵みの中心は、神があなたと共にいる、ということに尽きます。

イエス・キリストを救い主として信じ受け入れる者にはこの主にある喜びが与えられます。その喜びは、全能の主が私たちを子としてくださり、永遠に共にいてくださると言う喜びです。このクリスマスの時、教会が証しするのはこの主にある喜びです。

今朝この礼拝に招かれた一人一人に、神様は「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共に
おられる。」と語っておられます。私たちもマリアのように、「私は主のものです、お言葉
通りこの身になりますように」との告白へと導かれ、主にある喜びを新たにしまいたい
と思います。